
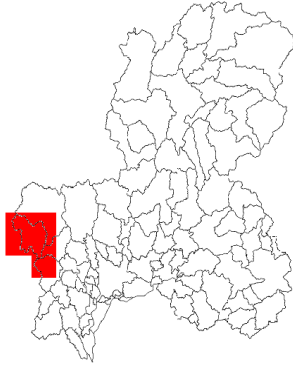


| | | |
|-------|---|---|
| ハナウド | <i>Heracleum sphondylium</i> L. var. <i>nipponicum</i> (Kitag.) H.Ohba | 絶滅危惧Ⅱ類 |
| | | セリ科 |
| 選定理由 | 大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつあり、個体数が大幅に減少している。 | 写真(高橋弘) |
| 形態の特徴 | 多年草。茎は太く中空で、上部で分枝して、高さ70~100cm。葉は3出複葉か羽状に5-7小葉を出し、小葉は卵形~広卵形。周辺花は外側の1花弁は大きく、深く切れ込む。果実は広楕円形で、きわめて扁平となる。 | |
| 生態的特徴 | 川沿いや林縁の草地に見られる。花期は5月。 |   |
| 分布状況 | 日本固有種で、本州(関東以西)、四国、九州に分布する。岐阜県においては県南西部に見られる。 | |
| 減少要因 | 生育環境となる河川堤防の改修、森林伐採など。本種の生育環境である低地、低山地は、人間の生産活動の活発な場所でもあり、改変により生育地が消失している。 | |
| 保全対策 | 現状の生育地の保全に配慮が望まれる。 | |
| 特記事項 | | |
| 参考文献 | 「日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類」(佐竹義輔ほか(編), 1982年) | |

文責:奥田浩之